

江刺保育園園内研修

# 児童虐待について

2019年6月22日

# 虐待の現状

- 虐待によって子どもたちの命が失われた事件が続いている。
- 警察、児童相談所等の不手際が報道されている。
- 児童相談所では人材不足、虐待の対応する専門の職員の不足が課題になっている。
- 児童虐待を生み出す要因について検証しなければならない。
- 虐待の対応について保育園としてどのように対応しなければならないのか考えなければならない。

# 江刺保育園では

- 出来ればこのような虐待は起らないで欲しい。
- 江刺保育園では、今までには死亡事例は無かったが、虐待で苦しんでいた子どもたちはいたと思う。

今回の研修は

虐待が有った場合適切な連携や対応が出来るように研修を行います。

虐待を予防するためにどのような保育を行わなければならないのかを研修します。

# 虐待の内容

## 身体的虐待

暴力による虐待、死亡事例が多い。

## 精神的虐待

暴言による虐待、面前での夫婦喧嘩、夫婦間のドメスティック  
バイオレンス

## ネグレクト

食事等、全く世話をしないで放置する虐待、病気でも通院しない、  
虫歯の放置、入浴をしない、同じ服を着ている。

## 性的虐待

性的な虐待、重大な精神的なダメージを与える、新たな精神障害を  
引き出す。

通報の件数では心理的虐待が51.6%、身体的虐待が26%、ネグレクト  
21.1%、性的虐待1.3%

# 虐待の要因

多様な要因が複雑に絡み合っている。

## 親の要因

予期せぬ妊娠（望まない妊娠）、精神的未熟、育児に関する知識不足、知的障害、精神疾患、非虐待歴、ひとり親、等

## 子どもの側の要因

発達あるいは身体的障害、育てにくさ、等

## 他に

孤独、貧困、夫婦関係の悪化、不安定就労、再婚、親への支援が十分で無い場合、虐待のリスクが高くなる。このような場合、虐待をするという事ではなく、虐待の傾向が高まるという事です。

# 統計

## 死亡事例

平成17年～平成29年度までで1,241名

平成29年度は84名が命を無くした。

1年間で5日に1名の子どもが死んでいる。

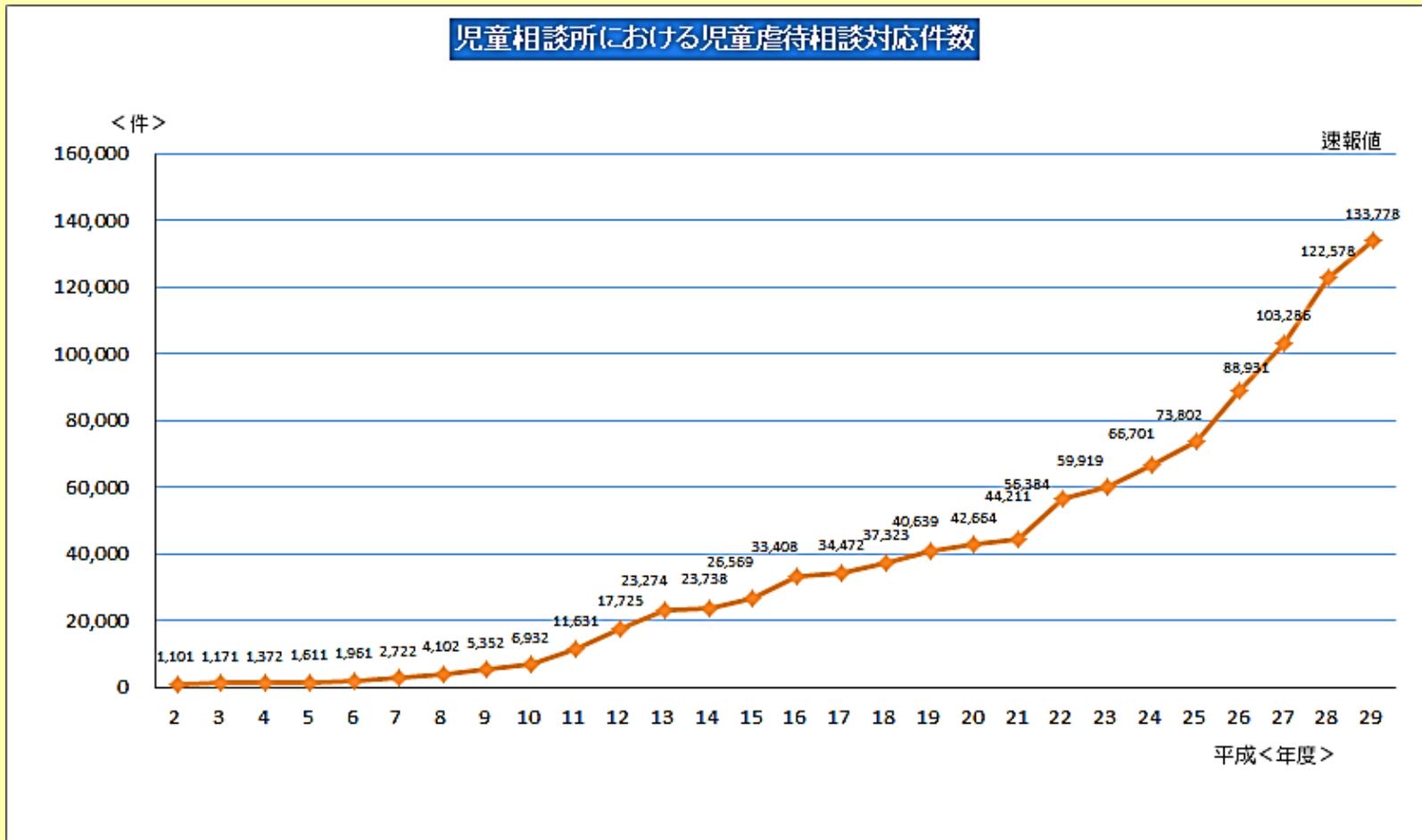
死亡した子どもの内 0歳児が50%超える。

要因は身体的虐待、次にネグレクト。

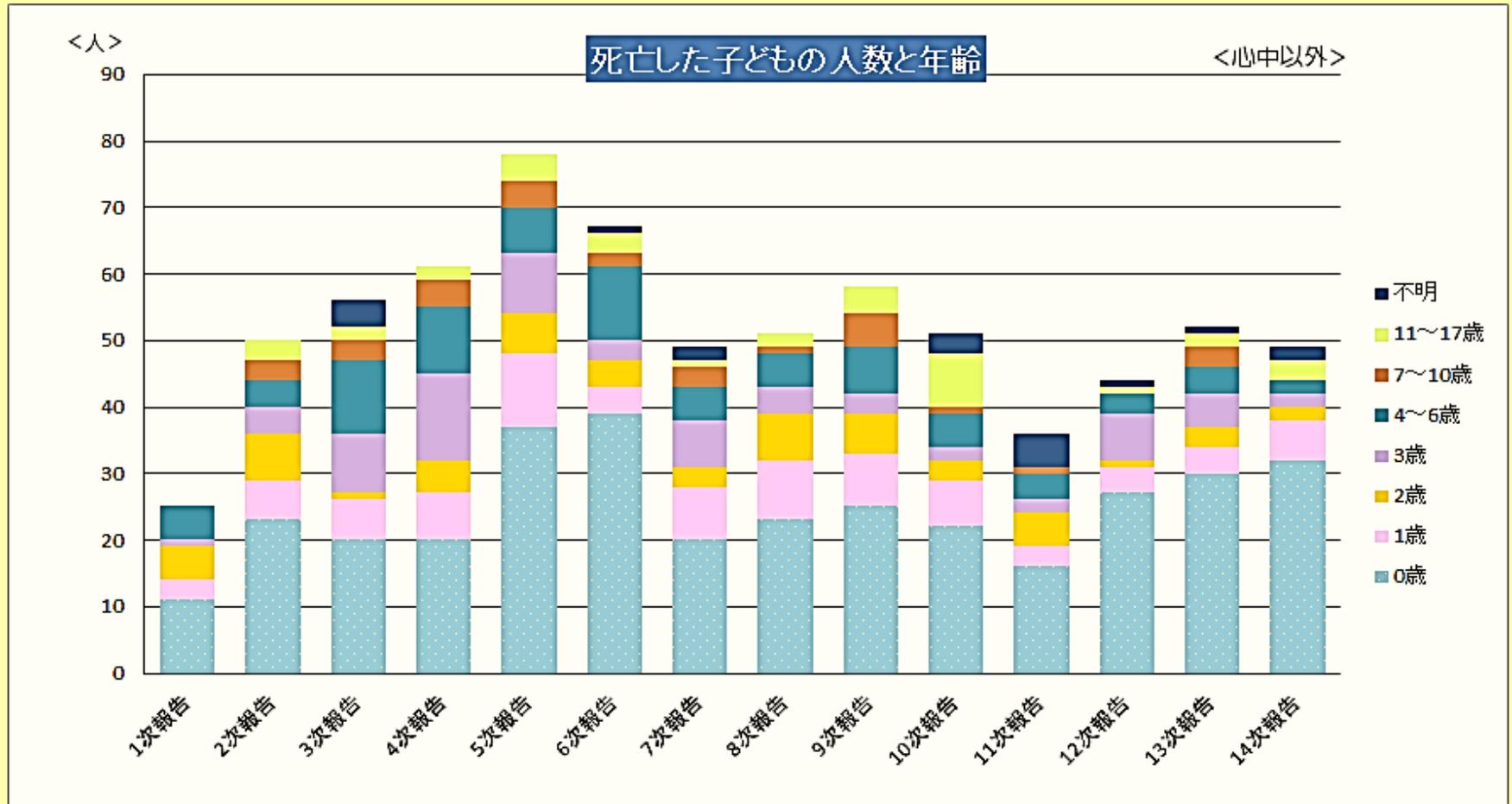
虐待の加害者は件数では実母が多い。

割合ではステップファミリーによる虐待が多い。

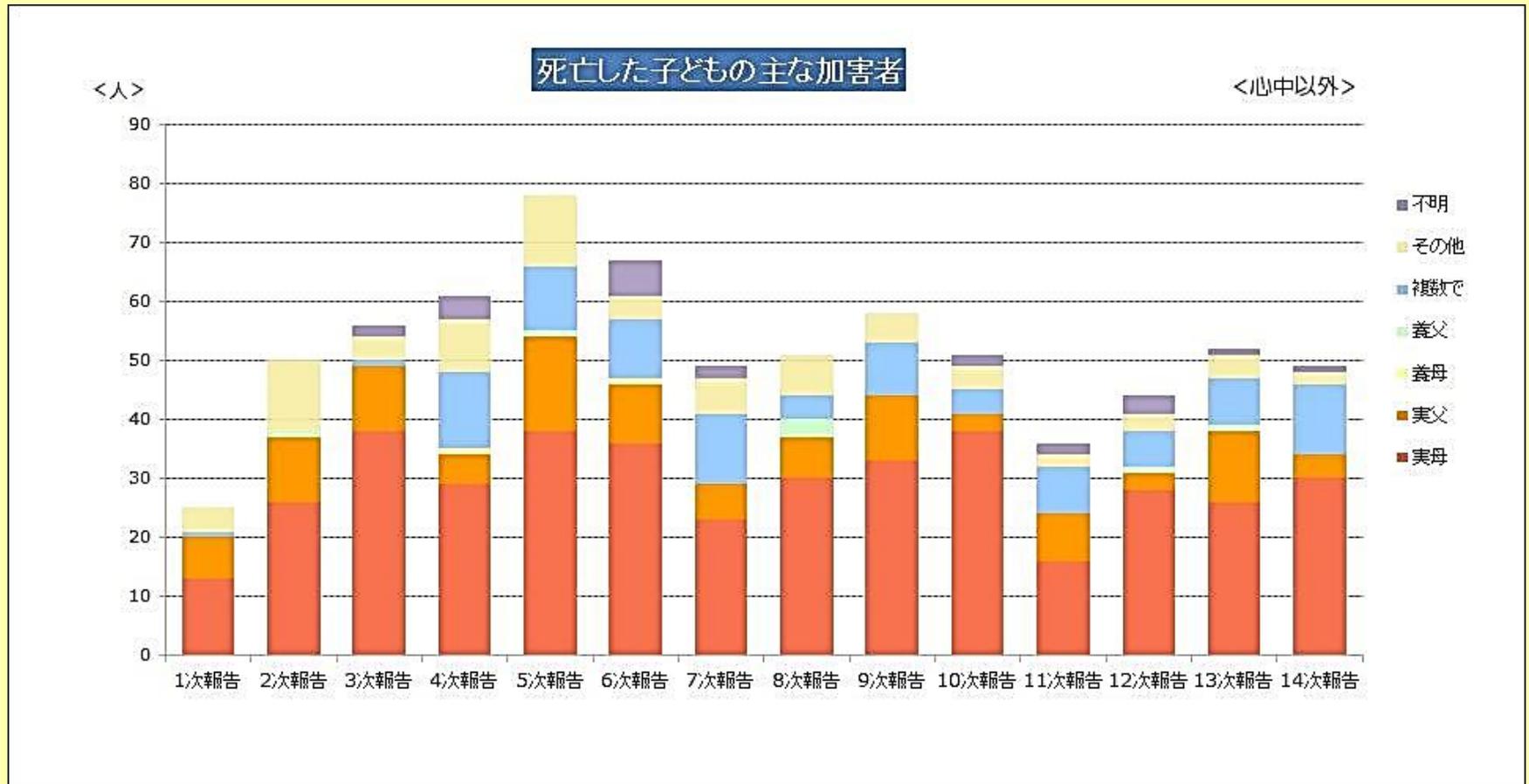
# 児童相談所への通報件数



# 死亡した年齢

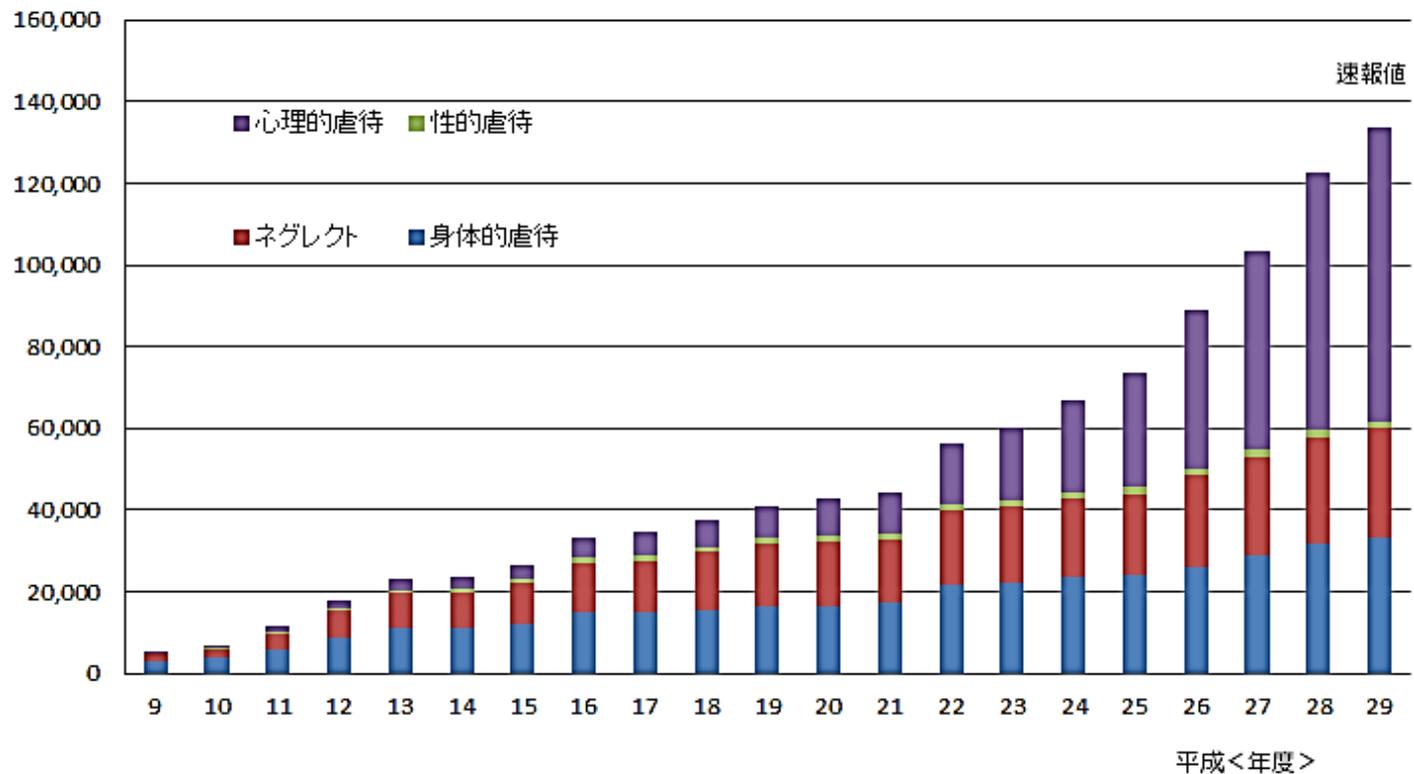


# 虐待の加害者



# 虐待の種類

児童相談所における児童虐待相談対応の内容



# 最近の事例 Ⅰ

死亡した船戸愛結ちゃん(5歳)の声

「ママ、もうパパとママにいわれなくてももしっかりと、じぶんからきょうよりか、もっともっとあしたはできるようになるから、もうおねがいゆるして、ゆるしてください。おねがいします。ほんとうにもうおなじことはしません。ゆるしてください。」

虐待の発覚は香川県、死亡は東京都です。5歳の女の子が父親による虐待によって死亡しました。

睡眠をとらせないで、早朝から起きて字の練習をさせたり、冬の寒い日にベランダに何時間も出したり、食事が与えられなかったり、ついには立つことの出来ず衰弱して死んでしまいました。

最近では栗原心愛ちゃん(小4年生)も父親からの虐待によって死亡しました。

「お父さんから暴力を受けています。先生なんとかありませんか」という訴えが有りました。

保護されていましたが、親元に戻され父親から「お父さんの暴力はありません。」という事を強制的に言わされ、虐待によって死んでしまいました。

児童相談所は児童を保護したが、父親の恫喝によって心愛さんを父親に戻した。

小学校もアンケートの結果を父親の恫喝によって父親に見せてしまった。

二人とも名前に「愛」という文字が使われています。生まれた時は「愛し」「愛される」存在として大切に育てたいという思いがあったことが推測できます。

しかし、虐待によって二人は命を奪われました。

二人とも父親による虐待です。母親も逮捕されましたが、虐待と知りつつ見ぬふりをした、虐待の手助けをしたという理由です。しかし、母親たちは父親のDVによってマインドコントロールされていたことが想像されます。

これから逃れることは不可能に近い。即急に父親と虐待を受けている家族を隔離しなければならない。

警察や児童相談所のような公的機関の支援が必要です。

このような父親は、プライドが非常に高く、社会に対して自分の家庭は自分によって秩序正しく、父親の意志に従って暮らしている。この状態を地域に表現し、自分は立派な父親であることを訴えるのです。

しかし、社会に対しては異常な劣等感を持っているのです。それを家族を支配することで自分のプライドを保つのです。

## 事例 2 心理的虐待による死亡例

2015年、東京都の中学2年生の男子

父親から「24時間以内に首でもつって自殺しろ。死ななかつたら俺(父)とお前の弟が死ぬ。」と言われ、次の日に中学2年生の男子は首をつって自殺しました。

児童相談所は強制的に虐待をしている親から子どもを引き離す権限を強める。

弁護士の常駐等が検討されている。

通報から48時間以内に確認することを強化した。

# 社会的背景

## 社会の変化

個人主義、プライバシーの尊重、地域社会の喪失、  
個人の生活に他者が関わることの無い生活。  
共稼ぎ家庭の増加

## 核家族化の促進

子育ての母親の負担増大  
他者が母親の子育てを支えない社会環境  
経済的な問題（貧困家庭の増加）  
孤独な子育て（不安の増長、ストレスの増加）

負担に耐え切れなくなり子どもを虐待してしまう。  
精神を病んでしまう母親が多くなっている。

# 子育ての本来的な有り方

- 子育ては一人ではできない。
- 母親を支えるための誰か、支援が必要
- 集団での子育てが人間の成長を進化させてきた。
- 母親の子どもに対する思いが本当の愛情を育ててきた。
- 「愛し愛される」関係性の基本は子育ての歴史の進化である。
- 基本的人権、民主主義の精神の根底には母親が苦勞して子どもたちの成長を支えて来た歴史によって生み出された。
- 人間は愛情によってしか精神を育むことが出来ない。(アタッチメント対応の大切さ)

人間は祖父母等2又は3世代家族が母親の子育てを支えて来た。近隣の家族も子育て中の母親を支えて来た。

子育ての文化が人間の精神文化を進化させてきた。

母親の負担を軽減する家族社会、地域社会の仕組みが存在していた。現在、特に都会に於いてこの関係性が失われてしまった。

子どもと保護者を支える保育園の働きは、その重要性が増している。子育て支援事業、かえるクラブも同様である

# 理解できない虐待

- 最近の虐待事例は、私たちには理解できない。
- 貧困や子育ての苦ししさからの虐待ではなく、子どもを理由なくいたぶっていることを楽しんでいるような虐待が増えているような気がする。
- 精神が病んでいる社会になってしまった。
- 支え合うことを拒否し、命が大切なものと思えない人たちが多くなっている。

# 虐待の対応

- 虐待を発見した場合、関連機関（市の福祉課等、総合子育て支援センター等）に通報し連携する。
- 命の危険性がある場合、児童相談所への通報を行う。
- 虐待が見つけた場合、又は疑われる場合は保育士一人で対応しない。施設全体で対応し、通報や連携を検討する。
- 命を守ることが最優先となる。
- 保育園の重要な働きは虐待の発見ではなく、虐待の予防にある。

# 保育のあり方

- 問題行動が有る子どもの対応を行う時、困った子どもという事ではなく、子ども自身が困っている子どもであるという捉え方が大切である。
- 問題行動(特に虐待が疑われる児童)をただ問題行動を直そうと指摘するだけではなく、その子の家庭状況、養育環境も考慮しなければならない。
- 家庭での養育環境を知るために、子どもたちに対して適切な保育をするためには個別面談や家庭訪問は大切である。
- 家庭で厳しく養育されている子どもは、保育園で甘え、子どもが依存的なることを受け入れる保育が必要である。
- 保育は子どものありのままを受け入れ、その思い(喜び、悲しみ、辛さ、寂しさ、迷い、全て)を共感できること。
- 保育者は自分の私的な状況に影響されない強い意志と冷静であり純粹に子どものありのままの姿を受け入れ、共感できる出来る精神が求められています。
- アタッチメントの重要性(乳児期は特に)

# 保護者との関係性

- 保護者と気軽に会話できる関係を造る。
- 保護者の悩みや辛さを傾聴する。そして共感する。
- 保護者が孤独にならないように、子どもの成長を共に支えることを伝える。同じ立場にある同労者として伝える。
- 子どもの成長している姿を喜びをもって顔を合わせて伝える。
- 結果を求めず、希望と祈りをもって継続する努力、積み重ねが大切。

# 虐待した保護者、虐待された子ども

- 虐待した保護者は、他者との関係を拒む。
- 虐待した保護者は、孤独の中で生きている。
- 保護者に対しては、拒まれたとしても子供の成長を一生懸命に支えることを、忍耐強く、真摯に伝え続ける。
- 虐待された子は、本当の愛情を知らない。暴力による関係性、強者弱者の関係性が人間関係であると思っている。その中で育ってきた。
- 本当の愛情を伝える。必要な対応と優しい声掛け、アタッチメントによって忍耐強く伝える。
- 虐待された子は、安心、安全な環境、信頼できる甘えられる人的環境、等の保育環境が必要。

# 虐待は他人事ではない

- 虐待はどこかの罪深い親がやっていることではない。
- 私自身が虐待を生み出す社会環境の要因になっているのかもしれない。
- 無関心や他者との関係性を煩わしいという思い、他者に対しての軽蔑や妬み等、誰でも、心の闇があり、自分は罪深く心の弱い人間であることを自覚する。
- このような罪深い人間であっても、私たちを子どもたちは私たちのありのままを受け入れてくれることに感謝する。
- 子どもたちは私たちを毎日力づけ励ましてくれている。
- 私たちは、子どもたちからいつでも支えられていることを忘れてはならない。
- 子どもたちが私たちを信頼し、私たちに喜んでもらいたいと願っている。
- 私たちはこの子どもたちに、どのように応えているのか考えなければならない。

# 最 後 に

- 保育の力を信じましょう。保育によって子どもたちは成長し、「愛し」「愛される」人間になることを祈り、希望をもって保育をしたいと思います。
- 大人たちの身勝手に罪深い虐待によって生きることの喜びを失ってしまった子ども達の為に、私たちがその子たちの命を再生し、生きる喜びを伝え、逞しく生きることができるよう支えましょう。
- 子どもたちの命を大切に守り、保護者を支え、保護者と共に、そして職員全員で力を合わせて、子どもたちの成長を支えて行きましょう。